

多施設共同研究

『医療連携パスによるアレルギー診療の質・患者満足度向上に関する検討』について

【本研究の目的】

アレルギー疾患は、全身疾患のため複数の臓器に跨ること、複数のアレルギー疾患を合併することが多いこと、完治することは少なく幼少期に発症して成人期にも通院が必要となることも多いことから、様々な診療科や医療機関が円滑に連携することが求められる。

施設間の診療情報共有については様々な取り組みが行われているが、いずれも断片的であり、アレルギーの診療において効率的・効果的な連携が取れている状況とはいえず、患者が診療内容に不満を抱えていることも少なくない。

本研究では、検査結果などの断片的な記録だけでなく、担当医の診療の意向（治療方針、指導内容など）も含め、また患者自身による診療経過や思いについても積極的に情報共有することで、診療の質や患者満足度が向上するかを検討する。その後、良い影響を与えた要素を特定し、それが恒常的に活用できる仕組み・体制を構築することで、今後も増加するであろうアレルギー疾患患者の診療の質の向上、および患者QOLの向上に貢献する。

倫理番号：HM20-065

研究期間：2020年6月～2023年3月

県拠点病院（6施設）

藤田医科大学ばんだね病院
（連絡会委員長・協議会事務局）

名古屋大学医学部附属病院

名古屋市立大学病院

愛知医科大学病院

藤田医科大学病院

あいち小児保健医療総合センター

医療連携パス

アレルギー専門医のいる医療施設



非専門医のかかりつけ医など

<スケジュール>

1. モデル検証研究
2. 課題発掘
3. 改善/関連団体と連携
4. 実用化プラン検証
5. 実用化

倫理申請が完了した施設から随時研究を開始している。